

早稲田大学大学院教育学研究科
博士論文概要書

創造的に読むための支援方法についての研究
オリエンテーション設定法・フォーカシング法・物語法・看図作文

鹿内信善

1.研究目的と方法

1-1 「創造的読み」の定義

本研究では「創造的読み」を次のように定義する。

「創造的読み」とは、目の前にあるテキスト情報と読者自身の既有情報を、変換・結合・補充等によって総合し、新しい意味を創り出すことである。

テキストを読みそれを理解することは、本来創造的な営みである。わたしたちは、呈示されたテキストの表面的な意味だけを受け取っているのではない。テキストの表面的な意味以上の意味を創り出してテキストを理解している。このように、通常のテキスト理解のプロセスにおいても創造的読みはなされている。しかし本研究では、新しい意味をより能動的に創り出していく「方法」として「創造的読み」を考えていく。

1-2 研究課題

支援の教育学

創造的読みは、学習者の主体性を重視した読みである。したがって、創造的読みを取り上げる授業は、方法を教授したり教え込んだりするものであってはならない。創造的読みの授業は、学習者の主体的な読みを支援するものでなければならない。浜本純逸は、支援の教育学の研究課題を5つにまとめている。まず、それを見ておこう。

「(1) 学習者の認知(わかること)の構造とプロセスはどうなっているか。それはどのように発展していくか。(2) なぜ『支援』しなければならないのか。(3) 『支援』するとはどうすることか。どのような方法が『支援』することなのか。(4) どのような教材を用意することが、『支援』することになるのか。学習活動と同時進行の教材開発法も求められよう。(5) 『支援』する立場からは、学習活動の何をどのように評価すればよいか。(浜本1997, p.47)」

この5つの課題はすべて、「創造的読み」を支援していく場合にもあてはまるものである。たとえば(1)は、創造的読みの場合、次のように書き換えられる。「(1) 創造的読みの構造とプロセスはどうなっているか。」(2)以下も同様に書き換えることができる。しかし、このうち(5)は(1)と密接な関係を持っているものである。(1)は、創造的読みがどのような行為であるかを検討する課題である。創造的読みがどのような行為であるかが明らかになれば、当然、その行為を遂行させることが授業の目標になる。そして、評価の基準は、その目標が達成されたかどうかということになる。したがって、(5)の評価の問題は(1)に吸収して考えることができる。

そこで本研究では、浜本があげている課題のうち(1)~(4)を研究課題とする。

作文教育との関連

本研究ではさらに、「創造的読み」を作文教育につなげていきたい。内田伸子(1982)は、読むことと書くことの関連について、次のように述べている。「“文章理解”と“文章産出”には共通点がある。どちらも一定の素材・・・を使って、ある意味的なまとまりのある内的モデルを作りあげる点で共通している。前者は、内的に、後者は明示的に構成するという違いはあるが。(p.176)」

内的なものを明示的なものにしたものが作文であるとしたら、内的な「創造的読み」を、明示的な「創造的作文」に発展させていくことも可能であろう。本研究では、「創造的読み」の支援方法を作文教育に活用していくことも研究課題としたい。

研究課題のまとめ

以上から、本研究の研究課題を整理すると次のようになる。

- (1) 創造的読みの構造とプロセスはどうなっているか。
- (2) 創造的読みを支援するとはどうすることか。
- (3) 創造的読みをどのようにして作文教育につなげていくか。
- (4) 創造的読みを支援するために、どのような教材を用意したらよいか。
- (5) 創造的読みをなぜ支援しなければならないのか。

1-3 研究方法

文献研究

「第1章『創造的読み』の歴史」と「第7章『創造的読み』をなぜ支援しなければならないか」では、主として文献研究にもとづく知見をまとめていく。

モデル構成と実験

第2章から第6章までは、それぞれ次のテーマを検討していく。

第2章 「創造的読み」支援のための前提条件

第3章 オリエンテーション設定法による「創造的読み」の支援

第4章 フォーカシング法による「創造的読み」の支援

第5章 物語法による「創造的読み」の支援

第6章 「創造的読み」の発展 絵図テキストを読む

各章とも、次のような手順によって研究を進めていく。まず「読みのプロセス」や「支援のプロセス」について、「心理学的モデル」を構成する。次に実験や実験授業を行い、モ

デルの妥当性を検証する。また、実験や実験授業を行うことにより、実際的かつ具体的な「創造的読み」支援の方法を提案する。

1-4 研究の概要

「創造的読み」の歴史(第1章)

第1章ではまず、わが国における「創造的読み」概念の歴史について概観する。次に、「創造的読み」の国語科教育史をふりかえる。

テキストの読みに創造的プロセスが含まれるという考え方は、釈迦の時代にまでさかのぼることができる。それほど古い問題であるにもかかわらず、「創造的読み」は国語科教育の中では、積極的に取り上げられてこなかった。しかし、まったく取り組まれてこなかったわけではない。大正期以降、何人かの優れた実践家が、「創造的読み」の指導や支援に取り組んでいる。

本章では、山路兵一の「読書創造」、秋田喜三郎の「創作的読方教授」、飯田廣太郎の「創造的読解」、大村はまの「生産的読み」など、「創造的読み」と目標を同じくした概念を掲げて行われてきた実践を概観する。また、大塩卓・倉澤栄吉らの「創造的読み」の授業や研究についても紹介する。このことによって、これまで行われてきた「創造的読み」支援の方法を整理する。

さらに現代的な課題である「メディア・リテラシー」「読者論」と「創造的読み」の関わりについても考察する。歴史を概観し、現代的問題との関わりを整理することによって、「創造的読み」は、古くて新しい問題になっていることを確認する。

第1章に関連する研究課題
(2) 創造的読みを支援するとはどうすることが。
キーワード
創造的読みの定義、創造的読み概念の歴史、創造的読みの教育史、読書創造、創作的読方、創造的読解、生産的読み

「創造的読み」支援のための前提条件(第2章)

「創造的読みの構造とプロセスはどうなっているか。」この問題を考えていく第一歩として第2章では、「創造的読み」をも包摂した「一般的読み」のモデルを構成する。このモデルでは「オリエンテーション」という概念が重要な役割を果たす。そこでまず、「オリエンテーション」概念について詳しく説明していく。オリエンテーションとは、ごく簡単に言えば、読みに伴う情報処理活動を方向づけるものである。

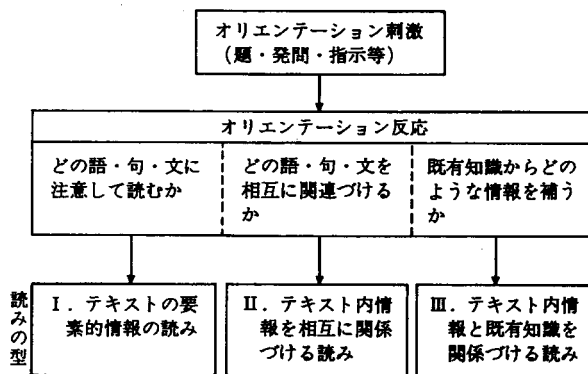


図0-1 「一般的読み」のモデル

「一般的読み」モデルの概念図を、図0-1に載せておく。このモデルでは、III型の読み、つまり「テキスト情報と既有知識を関連づける読み」が「創造的読み」に相当する。このモデルを参考にして、III型の読み(創造的読み)を行いやすくする条件を整理していく。いくつかの「文章理解実験」によって、以下の条件が「創造的読み」に及ぼす影響を分析する。

- ・評価懸念を取り除くこと。
- ・細かすぎるオリエンテーションを与えないこと。
- ・読み手の既有知識を利用可能な状態にしておくこと。
- ・プライミング技法を使うこと。
- ・テキストと積極的に相互作用すること。

以上の手順によって、「創造的読み」を可能にする前提条件を明らかにする。

第2章に関連する研究課題

- (1) 創造的読みの構造とプロセスはどうなっているか。
- (2) 創造的読みを支援するとはどうすることか。

キーワード

一般的読みのモデル、オリエンテーション、読みの型、評価懸念、既有知識、プライミング、テキストとの相互作用

オリエンテーション設定法による「創造的読み」の支援(第3章)
 前章で構成した「一般的読み」モデルは、「創造的読み」の積極的な支援方法を考えていく

ための参照枠としては十分なものではない。そこで第3章では、「一般的読み」モデルを拡張し、「創造的読み」に焦点をあてたモデルを構成していく。「創造的読み」のモデルを構成するにあたっては、Finkeらの「ジェネプロアモデル」を参照する。そのためまず、ジェネプロアモデルの概略を説明していく。次に、ジェネプロアモデルを参照して「創造的読み」のモデルを構成する。それが表0-1である。本章では、このモデルについても解説していく。

表0-1 「創造的読み」のモデル

テキスト (創造先行構造)	創造先行特性 (テキストが保有)	解釈プロセス	産出物制約
言語テキスト 詩・小説等	新奇性	概念解釈	産出タイプ
絵図テキスト	曖昧性	文脈変更	解釈文
絵・図・写真等	有意味性	仮説検証	劇化
	等の解釈を創発する特性	限界探索等	図化等

このモデルを使って、意味のよくわからない現代詩を創造的に読んでいく。そのために以下の作業を行う。

- ・「創造的読み」モデル(表0-1)に依って、意味のよくわからない詩を読む時の「読みプロセス」を分析する。
- ・「創造的読み」モデルに依拠し「オリエンテーション設定法」という創造的読みの方法を提案する。
- ・「オリエンテーション設定法」を用いて、意味のよくわからない現代詩を創造的に読んでいく。それによって「オリエンテーション設定法」の有効性を確かめる。
- ・集団学習事態で、「オリエンテーション設定法」を用いた「創造的読み」支援実践を行う。以上の手順によって、「創造的読み」支援方法としての「オリエンテーション設定法」を確立していく。

第3章に関連する研究課題

- (1) 創造的読みの構造とプロセスはどうなっているか。
- (2) 創造的読みを支援するとはどうすることか。
- (4) 創造的読みを支援するために、どのような教材を用意したらよいか。

キーワード

ジェネプロアモデル、創造先行構造、創発特性、「創造的読み」のモデル、オリエンテーション設定法、現代詩、詩の解釈、支援プログラム

フォーカシング法による「創造的読み」の支援(第4章)

前章で構成した「創造的読み」モデルに付け加えるサブモデルを考えていく。本章の主要なアイデアは、フォーカシングという臨床心理学の方法を「創造的読み」のモデルにすることにある。フォーカシングとは、悩みを読み解き問題を解決していくための臨床心理学的方法である。出口が見えない悩みを読み解くことと、わけがわからない現代詩を読み解くことは似ている。このアナロジーから上述のアイデアは導出されている。

フォーカシングの方法を「創造的読み」の処理モデルとしていくために、次の作業を行っていく。

- ・フォーカシングとは何か、その考えと方法を詳しく解説する。
- ・フォーカシングのプロセスと、詩を「書く」「読む」プロセスを対応づける。そのことにより、2つのプロセスは類似したものであることを例証する。
- ・フォーカシングを用いた、詩の読みのプログラムを構成し、その有効性を確かめる。
- ・フォーカシング法による「創造的読み」支援プログラムを構成し、実際の学習事態に適用してみる。

以上の手順によって、「創造的読み」支援方法としての「フォーカシング法」を確立していく。

第4章に関連する研究課題
(1) 創造的読みの構造とプロセスはどうなっているか。
(2) 創造的読みを支援するとはどうすることか。
キーワード
創造的読みのモデル、支援プログラム、教示系列、オリエンテーション生成、フォーカシング、フェルトセンス、フェルトシフト、ひらけ、感性と認識、詩の主題把握、層序法、展開法

物語法による「創造的読み」の支援(第5章)

本章でも、「創造的読み」モデルに付け加えるサブモデルを考えていく。ここでは、物語の形態論的構造分析研究によって明らかにされている、「物語構造」を「創造的読み」の処理モデルにしていく。

Proppは、多くの民話に共通する物語構造を抽出している。Proppの物語構造は、登場人物の行為系列として記述される。物語構造は、わたし達が物語をつくったり読んだりするために必要な規則(コード)としての役割を果たしている。したがって、この規則に逸脱して文章が組み立てられると、意味がわかりにくくなる。たとえば、複数の人物が登場し、物語性があると感じられるのに、一読しただけでは意味がよくわからない現代詩が多く存在する。このような詩の中には、「一定の物語構造の一部を欠落させる」という規則違反を

犯しているものがある。そのような詩は、読者が規則(物語構造)に従って、欠落情報を補っていくことにより理解可能になる。本章ではこの仮説を検証していく。そのため、次の作業を行う。

- ・ Propp の物語構造を処理モデルとした、「創造的読み」の支援プログラムをつくる。
 - ・ それを大学生に実施し、有効性を確かめる。
 - ・ さらに小学校の授業事態で実施し、適用範囲が広いものであることを確かめる。
- 以上の手順によって、「創造的読み」支援方法としての「物語法」を確立していく。

第 5 章に関連する研究課題

- | |
|---|
| (1) 創造的読みの構造とプロセスはどうなっているか。
(2) 創造的読みを支援するとはどうすることか。 |
|---|

キーワード

物語構造、創造的読みのモデル、物語法、支援プログラム

「創造的読み」の発展 絵図テキストを読む(第 6 章)

本章では、「創造的読みをどのようにして作文教育につなげていくか。」という課題を検討していく。前章までは、「文字テキスト」を創造的読みの対象にした。本章では「絵図」を創造的読みのテキストにする。さらに「看图作文」という新しい作文指導法を提案する。これは、絵図を創造的に読み解き、その内容を文章にまとめていく作文方法である。看图作文は、もともとは中国の国語科教育で盛んに行われている指導方法である。

本章では、「創造的読みの理論」を「創造的[読み書き]の理論」に発展させていく。そのために、次の作業を行う。

- ・ 中国における看图作文の指導について概観する。
- ・ 絵図を創造的に読む活動を「情報処理」という観点からモデル化する。また、この処理モデルと創造的読みの理論および中国式看图作文を融合させた、「新しい看图作文」を提案する。
- ・ 「新しい看图作文」の実験授業を行い、その有効性を確かめる。
- ・ 「新しい看图作文」を国語科教育に導入することの意義を「インベンション指導」という観点から考えていく。
- ・ 「新しい看图作文」の更なる可能性を追求する。とくに、看图作文の授業システムを応用した「自己理解・自己分析」の授業システムを提案し、その有効性を確かめる。

以上の手順によって「創造的[読み書き]」支援方法としての、「新しい看图作文方式」を確立していく。

第 6 章に関連する研究課題

- (1) 創造的読みの構造とプロセスはどうなっているか。
- (2) 創造的読みを支援するとはどうすることか。
- (3) 創造的読みをどのようにして作文教育につなげていくか。

キーワード

看図作文、絵図テキスト、絵図理解の情報処理、変換、要素関連づけ、外挿、ボトムアップ看図作文、トップダウン看図作文、物語文の基本構造、問答法、取材と構成の同時指導、インベンション指導、発見の場、動機づけ、授業の活性化、授業分析、自己理解、自己分析、五牛図、高崗独立図

「創造的読み」をなぜ支援しなければならないか(第7章)

本章では「創造的読みを支援するために、どのような教材を用意したらよいか。」という課題にも言及しながら、「創造的読みをなぜ支援しなければならないのか。」という問題を考えていく。とくに次の4つの観点から、この問題に対する答えを見つけていく。

- ・ 創造的読みと「わたしがわたしとして生きる」こと
- ・ 創造的読みと明日を生きる力
- ・ 創造的読みと情報化社会を生きる力
- ・ 創造的読みと「生きている感じ」

第 7 章に関連する研究課題

- (4) 創造的読みを支援するために、どのような教材を用意したらよいか。
- (5) 創造的読みをなぜ支援しなければならないのか。

キーワード

自己理解、創発特性、独自の意味を見出す、生きる力、経験を読み解く力、想像力、情報化社会、メディア・リテラシー、オルターナティブテキスト、オリエンテーション変更、映像テキスト、語りなおす力、生きている感じ